（様式－3）

送電線工事災害報告書（再発防止対策書）

九州支部

発生日時	令和 4 年 6月19日（日曜日） 10時40分						天候	くもり		
災害の程度	死亡 名		負傷 1 名		職種 基礎作業員		年令 41 才		経験年数 12年	
工事の種類	調査測量	伐採	運搬	仮設	(基礎)	組立	足場	架線	撤去	その他
災害の種類	墜落・転落	(転倒)	物の飛来・落下	崩壊・倒壊	はさまれ・巻き込まれ	切れ・こすれ	感電	その他		
原因	作業準備の不良	(作業方法の不良)	工具防具の不良	電気工作物の不良	作業者の過失	共同作業者の過失	その他			

災害の状況

【件名】 重機転倒による作業員負傷事故

【発生状況】 当日、当該作業班は、作業員7名（被災者含む）によりNo.4鉄塔基礎工事の埋め戻し及び片付け作業に従事していた。

このうち被災者は、コンクリート残材の撤去作業を行うため、可変脚式小型バックホー(0.05㎥)を移動していたところ、何らかの原因でバックホーが転倒し、飛び降りようとした際、バックホーと切株との間に挟まれ負傷した。

【被災状況】 右多発肋骨骨折、右外傷性血気胸、右腸骨・右恥骨骨折、肝損傷、脾損傷、仙骨骨折

【被災者の服装】 作業服、安全帽、安全靴、手袋

原因及び対策

【原因】

- 可変脚式バックホーのクローラ及びブレードを最小幅にしたままの不安定な状態で方向転換を行い、動揺によりバックホーが転倒した。
- 重機作業の専任監視者はバックホーが方向転換していることに気付かず、誘導ができなかった。

【問題点】

1. 被災者は、作業時はバックホーのクローラ及びブレードを広げて作業しようと思っていたが、方向転換時に操作を省略した。
2. 被災者は、バックホーが転倒するかもしれないという危険感受性が欠如している。
3. 被災者は、バックホーを移動するにも係わらず、専任監視者へ自らの行動の呼称を行わなかった。
4. 専任監視者は他の作業に気を取られ、監視に専念していなかった。

【再発防止策】

(1 使用重機の遵守事項の徹底及び注意喚起の確実な実施)

- バックホーの機種に応じた遵守事項を記載したステッカー等をオペレータが常時視認できる位置に貼付し、移動時も含めて重機操作時は、遵守事項を徹底する。
- 作業前ミーティング時に作業責任者より全作業員に対して、当日作業内容に応じた安全ポイント等の注意喚起を確実に実施する。

(2 安全意識及び危険感受性の向上)

- 安全大会等で今回の事故を含む過去の重機災害事例等を活用した教育を実施し、危険感受性の向上を図る。

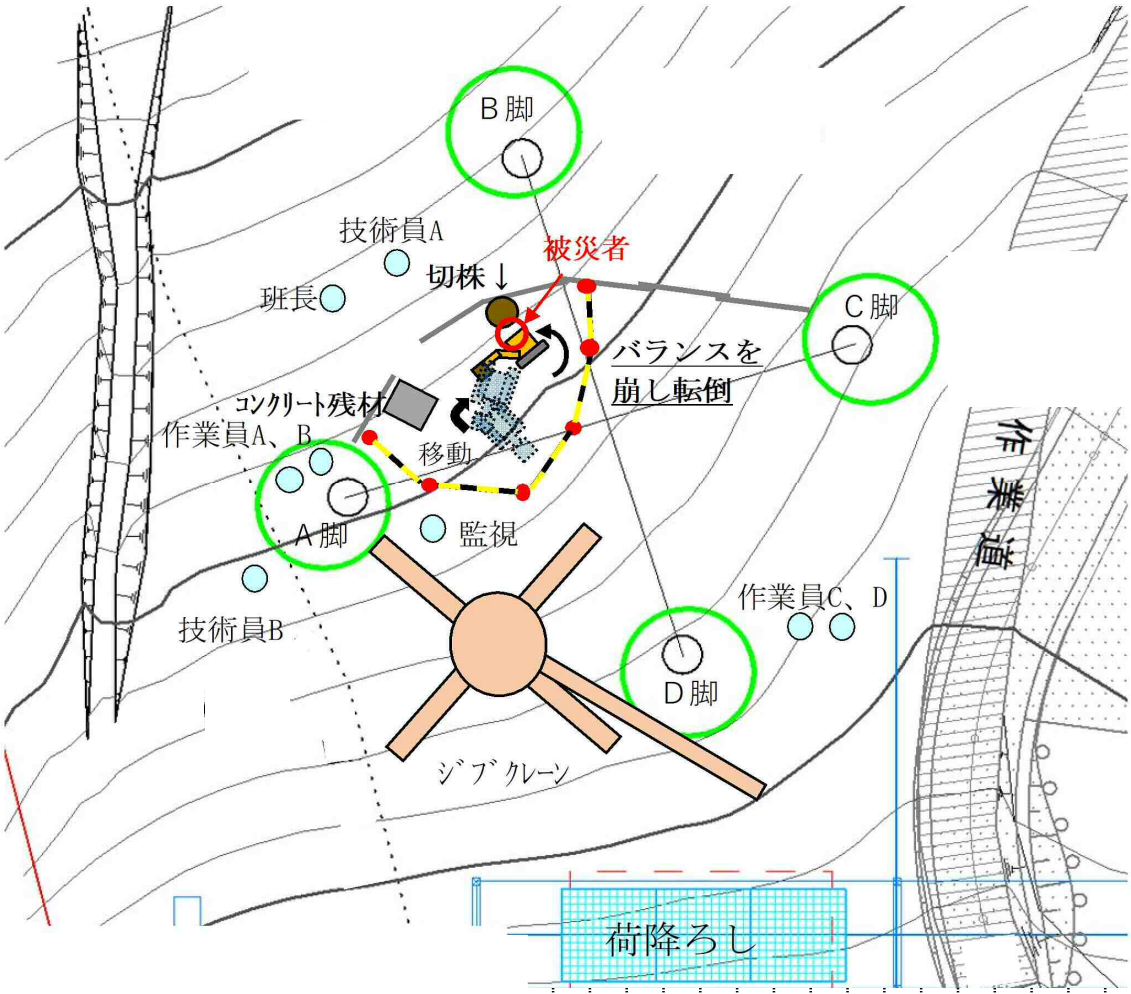
(3,4 基本動作の徹底及び専任監視に関する教育の確実な実施)

- 重機操作時は移動も含めて確実に呼称を行うなど、基本動作の徹底について、再教育を実施する。

（様式－2）

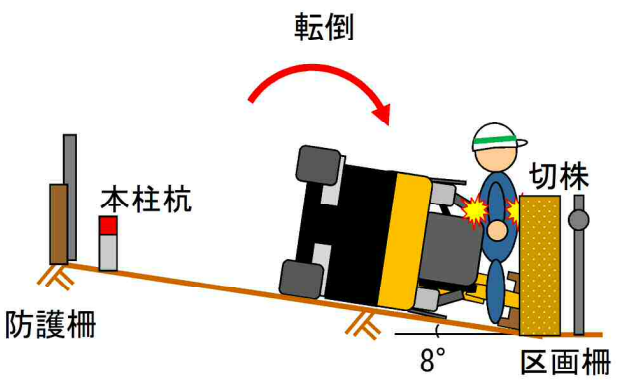
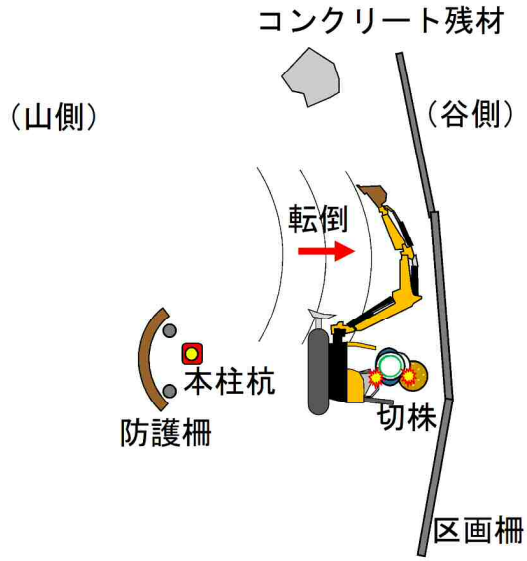
災　害　概　要　図

【概要図】



【災害状況　拡大図】

［側面］



［平面］